

ソデイカ情報

沖縄県水産試験場

901-03 沖縄県糸満市西崎1-3-1

第3号 1997年8月

電話 098-994-3593・3597

ファクシミリ 098-995-2357

1996年11月から1997年6月に、糸満漁協に水揚げされた3,646のソデイカの外套長を測定した結果が図-1です。ソデイカは禁漁期間中の夏場に30cmくらいから60cmくらいまで急激に成長します。今期は11月に平均64cmだったものが2月に75cmまで成長し、その後平均外套長はあまり大きくなりませんでした。

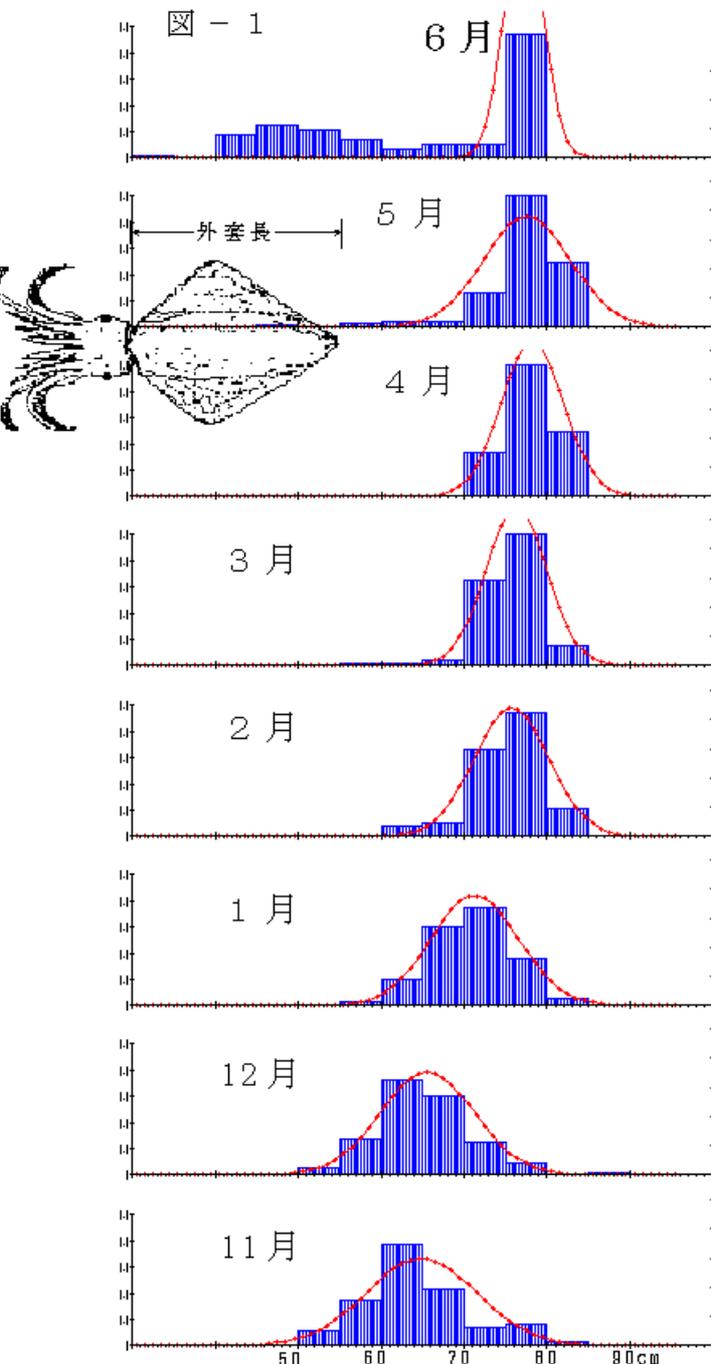
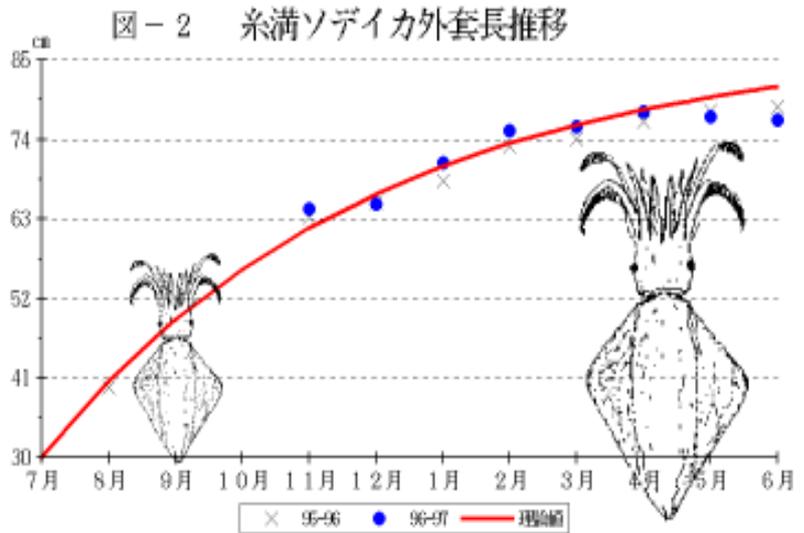


図-2は、理論的な成長曲線と95-96期(1995年11月～1996年6月)、96-97期に測定された平均外套長です。両期とも5月、6月は理論値よりも小さくなっています。ソデイカは年に何回か産卵し、産卵後急に死亡率が高くなると考えられます。そのことが、4月以降平均外套長があまり大きならないことと関係しているかもしれません。

図-3、図-4は、これまでの全県水揚げ量の推移です。94-95期までは順調に水揚げは伸びてきましたが、前期(95-96期)は不漁でした。今期は1,650tで、94-95期(2,342t)にはおよばないものの、前期(766t)の2倍以上漁獲されました。95-96期の不漁が、流れ水温等海洋環境の変化のせいなのか、それとも、94-95期に獲りすぎたせいなのかは、まだよくわかっていません。

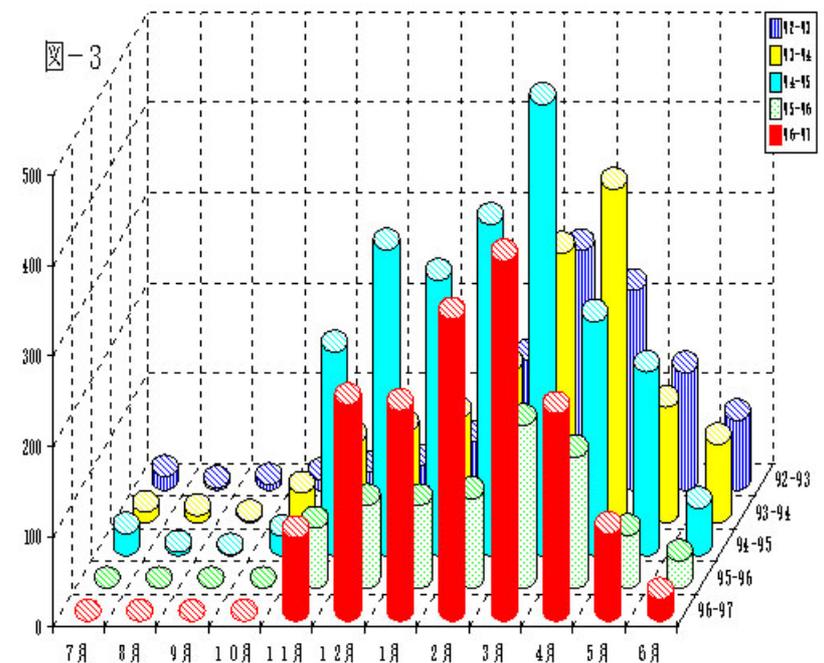




図 - 4

ソデイカ水揚量の推移

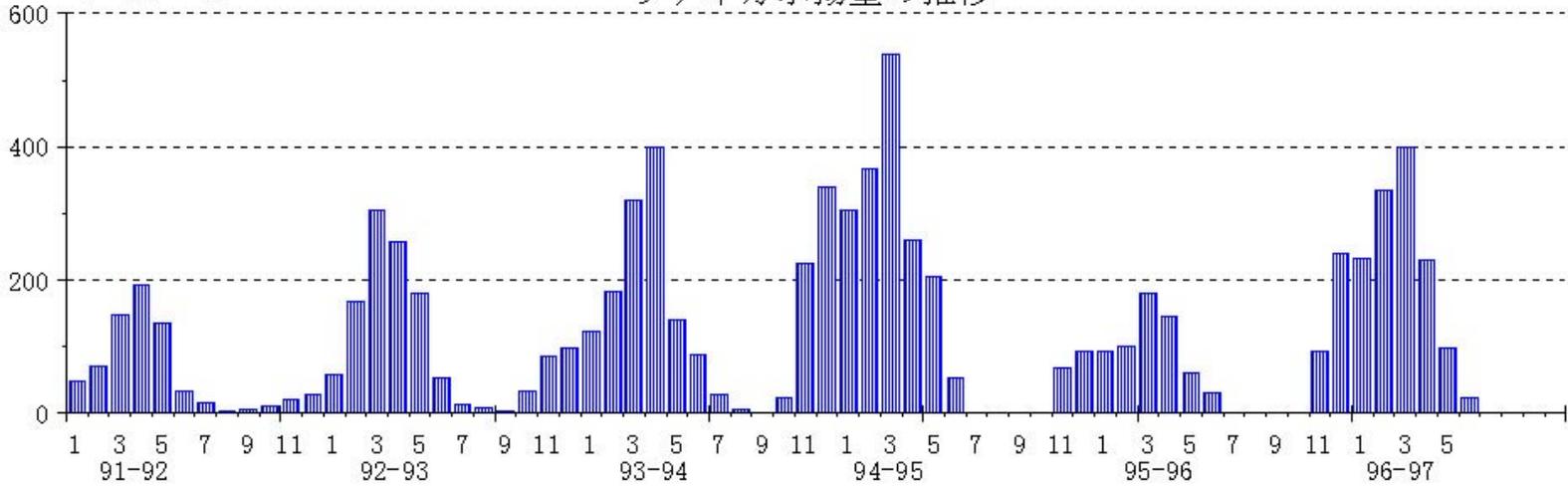
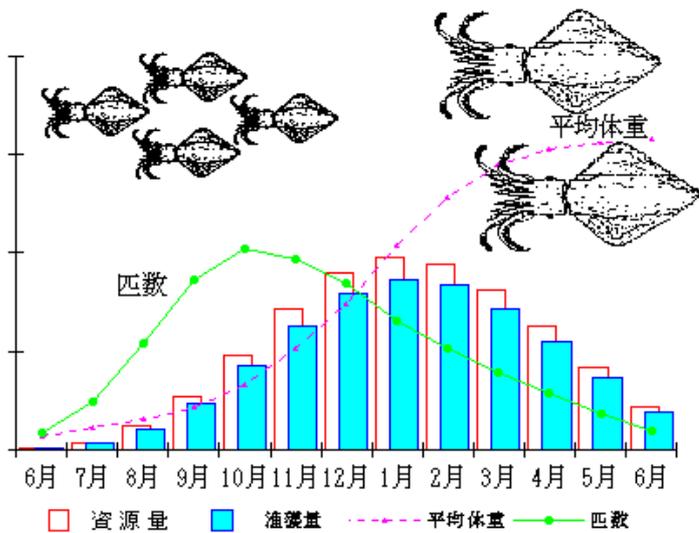


図 - 5

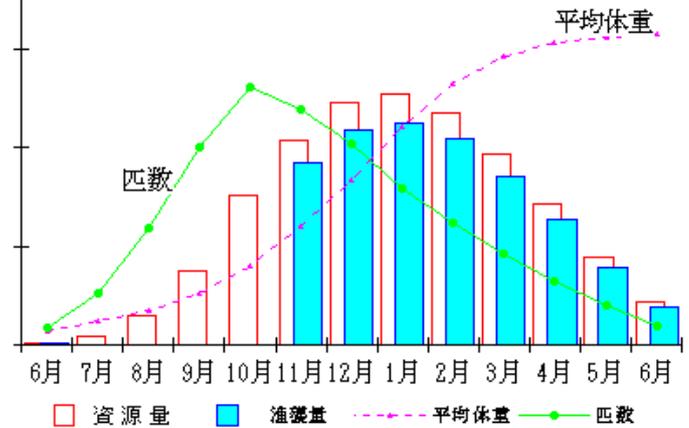
禁漁なし



7-10月禁漁

漁獲量 1,735t 対 1,880t

産卵量 426億個 対 593億個



海洋水産資源開発センターの調査で久米島沖に1996年10月30日に放流されたソデイカが、12月28日に糸満沖で再捕されました。また、西海区水研石垣支所が八重山南で音響発信器をつけて追跡したソデイカは、南の方向へ約1ktの速度で移動しました。

図 - 5は7-10月禁漁にした場合としない場合で、資源量や漁獲量がどう変化するかを計算した一例です。夏場の成長が速いので、この間小型のイカを獲らないで保護すれば、禁漁しても総漁獲量は多くなります。総産卵量も禁漁によって増加します。